

井出 茂

小松屋旅館

昭和30年（1955）、川内村生まれ。
高校卒業後に県外で就職したが、帰村後 富岡町の割烹料理店で修業、
家業の「小松屋旅館」を継ぐ。49歳で村議会議員となり、現在5期目。
川内村商工会会長。

地面が波打つような大きな揺れに慌てて自宅に戻ると、
先代から受け継いだ旅館は土壁が崩れた姿に。
震災直後は富岡町民の受け入れや炊き出しも行っていたのですが、
やがて食料もつき、避難を決めました。福島第一原発は爆発後に一度火災があり、
当時川内村にいた富岡町の消火の責任者が声を震わせながら「ただちに向かいます」
と報告していた姿が、今も目に焼き付いています。
2011年4月には旅館を廃炉関係者の宿泊場所として提供することになり、
さらに12月の「帰村宣言」に伴い、行政に続いて商工会も村に戻ることになりました。
村は紙を1枚ずつ重ねるようにして日常を取り戻してきました。
ただ買い物のできる店があるだけでなく、そこに生産活動があって、
田んぼがあって野菜が採れて、本来の暮らしができてこそ日常なのだと思います。
かつて村の自慢は、地元の山菜やキノコ、イワナなどでした。
そんな大事な観光資源が失われ、里山の文化が廃れるのは寂しいことです。
震災によって、改めて気づかされた“ふるさとの良さ”。
新しいコミュニティとしての川内村を築き、再び豊かな川内村の暮らしを
取り戻すことができればと願っています。



そば店「天山」、パン店「RIVIERE」は
それぞれ息子さん、娘さんが店長を務める